

第42回

少年の主張大会

作文集



高浜市

高浜市教育委員会

「少年の主張大会」は今年で第42回を迎えます。本大会は、少年が日常生活の中で考えていることを広く訴えることにより、社会性や自主性を培うこと、さらには私たち大人が彼らの訴えを知ることで高浜の将来を担う少年たちの成長を応援するきっかけとすることを目的に開催しています。

今回発表していただいた7人のみなさんの主張には、大人の私たちでは気づかないような新しい考えや、さまざまな体験から自らを見つめ直し、自信をもって歩いていく頼もしい子どもたちの姿がありました。

私たち大人は子どもたちが考えていること、求めていることをしっかりと受け止め、今一度地域全体で子どもたちの成長を支援していくことが必要ではないでしょうか。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたり、お力添えをいただきました皆様に深く感謝申し上げます。

高浜市長 吉岡 初浩

高浜市の少年の主張大会も第42回を迎えました。

子どもの頃から、自分の意見をしっかりとち、意見の異なる他者を受け入れながら物事に取り組むことが、自主性や社会性を養うことに繋がります。

子どもたちが自身の体験を通して社会を見つめ、その考えを発表し、自分の夢や希望に向かって進む姿勢は、未来を切り拓く力にあふれた次世代を築くことにきっとつながることでしょう。

まずは私たち大人が地域の中で子どもたちに目を向け、社会全体で子どもを育てるという意識をもち、子どもたちと対話する姿勢を示すことが重要です。ぜひ本大会がそのきっかけとなればと思います。

最後になりましたが、子どもたちの豊かな成長にお力添えをいただいている皆様に感謝申し上げますと共に、皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

高浜市教育委員会
教育長 岡本 竜生



小学生の部

☆僕は僕のままで大丈夫	高浜小学校6年	やまざき 山崎	ライ	……	2
☆夢をあきらめない	吉浜小学校6年	とやま 外山	ひさき 陽咲	……	3
☆ラーケーションを全国へ	高取小学校6年	はるうち 春内	そら 爽良	……	5
☆信頼し合える関係のために	港小学校6年	すぎうら 杉浦	あやは 彩葉	……	6
☆一人の時間と人と関わる時間	翼小学校6年	おおくぼ 大久保	まい 舞衣	……	7

中学生の部

☆ただ自分でありたいだけ	高浜中学校3年	はしもと 橋本	みゆ	……	9
☆ありのままの自分	南中学校3年	さかい 酒井	あいな 愛菜	……	11

高校生の部

☆相手と向き合う	高浜高等学校3年	きつない 橘内	さあら 紗亜羅	……	13
----------	----------	------------	------------	----	----

〔敬称略〕





僕は僕のままで大丈夫

高浜小学校6年 山崎 ライ

僕の本名は、山崎 ライン エゼキエルです。僕は、五年生のときに、今の学校に転校してきました。前の学校では、山崎キエルという名前と呼ばれていました。

「キエルは、消える。」

「キエルって本当に消えるの？」

「何でそんな名前なの」

僕は、前の学校でいじめられていました。たくさんの人が僕の名前をバカにしました。でも、僕の名前は、どんな言葉でも表せないほど僕が愛している父と母からもらったものです。僕が生まれて初めて父と母からもらったプレゼント。なのに、それをばかにされると、まるでその名前を選んだ僕の父と母をばかにされているようで心が痛みました。せっかく考えてくれた名前なのに…。僕は、母に話しかけました。

「ママ。そんなに僕がみんなに消えて欲しいと思われているなら、本当に僕が消えても誰一人気づいてくれないのかな。」

と。すると母は、

「誰もあなたが消えて欲しいとは思っていないよ。あなたは、そのままで大いじょうぶよ。幸せな結末を迎えるまで、自分の人生を生きていきなさい。」

母は、やさしい声で言いました。僕の目は、涙でいっぱいになっていました。僕はとても安心してうれしい気持ちになりました。

次の日もまた僕は、学校でばかにされました。でも、母の言葉を思い出せば安心することができました。それでも、いつになってもいじめは止まりませんでした。

僕は、また母に心の内を相談しました。その時、母はすでに僕を別の学校に転校させることやいじめのきっかけとなった呼び名を変える計画を立てていました。母はそれを僕に説明し、いよいよ転校する日が来ました。

僕は、とても緊張していました。この学校でまたいじめられるのではないかと怖かったからです。先生と一緒に教室に行きました。そして、自己紹介の時、僕はさらに緊張しました。自己紹介が終わると、先生が何か質問があるか尋ねました。たくさんの人が手を挙げ、僕の好きな色や食べ物を尋ねました。みんなとても親切でおもしろく見えました。他のクラスの人たちも僕に会いに来てくれました。みんなとても喜んでいる様子で、僕はすぐに友達ことができました。





次の日も、みんなが僕に話しかけてくれて、たくさん話をしました。僕は、とてもうれしくなりました。みんなが僕自身を見てくれていて、受け入れてくれた気がしました。そして、そのおかげで、いじめに対する僕の心配は消え去りました。

しかし、今も時々いじめのことを思い出します。思い出すと、苦しい気持ちになります。なぜ、いじめは起こるのでしょうか。僕には理解できません。いじめられる人の悲しみや苦しみが分からないのでしょうか。いじめが原因で、自分の命を絶つ人もいます。いじめは、相手の心に永久に消えない傷を残すかもしれません。

僕は、今の学校に来て、自分に自信がもてるようになりました。僕は、この学校でなら本名である「山崎ライン エゼキエル」を堂々と名乗ることができると思っています。それは、僕の周りの人たちが僕を大切にし、受け入れてくれたからです。母が言ってくれた「あなたは、そのままでだいじょうぶ。」の言葉通り、今なら、僕は僕のままで大丈夫だと自信をもって言えます。そして、僕自身が人を傷つけないようにしたい、人の心を大事にできる人でありたい、と強く思っています。

夢をあきらめない

吉浜小学校6年 外山 陽咲

ある晴れた日曜日の朝のことです。さわやかな風がふき、飼い主といっしょに歩いている犬も気持ちよさそうに散歩を楽しんでいます。自転車に乗った小学生のグループが、歩いている私を追いこしていきました。全員野球のユニフォームを着て、リュックからはバットがのぞいています。今日はどこかで練習試合でもあるのでしょうか。「がんばってきてね」と心の中で応援しました。さて、皆さんはこの話を聞いて、光景がイメージできたでしょうか。犬はどんな犬でしたか？小さい犬ですか？それとも大きい犬ですか？小学生のグループはどんな子達ですか？元気のよい男の子達ですか？それとも大人しそうな女の子達ですか？

私は、保育園の年中から野球チームに入っています。私のチームは、全員で十二人います。同じ野球チームの中に、女子は私一人です。私の夢は、女子硬式野球チーム「廿日市サンブレイズ」の選手になり、「侍ジャパン」に選ばれることです。その夢を叶えるために、毎日練習に取り組んでいます。現在の目標は、今いるチームで一番





の選手になることです。目の前の目標を一つ一つこなすことで「侍ジャパン」に選ばれるという夢が叶えられると思っています。そして、その夢に向かって努力する中で心の中に強く生まれてきた思いが二つあります。一つ目は、試合会場に女子トイレがない場所があるので、全ての試合会場に女子トイレを作ってほしいということです。昔は「野球は男の子のスポーツ」と思われていたかもしれませんが。でも今は、私のように野球を本気で頑張っている女の子がたくさんいます。それなのに、トイレがなくて困るなんて、とても悲しいことです。だから私は、すべてのグラウンドに女子トイレを作ってほしいと願っています。二つ目は「女の子が野球をするのはおかしい」という考えをなくしてほしいということです。私は小学二年生のとき、男の子にこう言われました。「女子野球なんてないよ」「女の子が野球をするなんておかしい」。その言葉を聞いたとき、私は悔しさと、悲しさで、胸がいっぱいになりました。でも、それがきっかけで、「絶対に見返してやる」と思いました。今では野球のトレーニング教室にも通っています。でもそこでも、「女の子だから」とやりたくないことを押しつけられたり、文句を言われ避けられたりすることもあります。私は、そんなふうに「女の子だから」と差別されたり、笑われたりするのが、とてもつらいです。そして、それは私だけではありません。私と同じようにつらい思いをしている女の子が、きっとたくさんいます。そうした言葉や態度は、人の気持ちを傷つけ、その人の夢や可能性を奪ってしまうと思うのです。

はじめの話にもどります。野球のユニフォームを着ている小学生グループをどんなふうに想像しましたか？きっと多くのみなさんが「元気のよい男の子」をイメージしたのではないのでしょうか。もしもそうだったら、そんなあなたに伝えたいです。人が当たり前だと思っていることで、傷ついている人がいるかもしれないことを。私は、夢をあきらめたくありません。そして、どんな人も、性別や思い込みで差別されることなく、自分の夢を堂々と語れる社会になってほしい。そう強く願っています。





ラーケーションを全国へ

高取小学校6年 春内 爽良

みなさんは、ラーケーションを知っていますか？ラーケーションを使ったことはありますか？

ラーケーションは、愛知県のみで使われている制度です。平日に学校を休み、家族と校外での学習をすることを目的としています。学習（ラーニング）と、休か（バケーション）を合体させた言葉を意味します。

ラーケーションは、2023年度に始まりました。1年に3日取ることができます。

総務省によると、土・日曜日で働いているお父さんとお母さんは、約30%を示しています。少しでも子供と過ごすためにラーケーションがつくられました。

去年ぼくは、ゴールデンウィーク期間でラーケーションを利用しました。旅行に行ったり、家でご飯を作る練習をしたりしました。

旅行では、兵庫県に行き、姫路城に行きました。そこで、城のつくりや城主の着ていた鎧などを見ました。城に登るために急な坂があってびっくりしました。昔の戦国時代の人々は、命をかけてこの城づくりをがんばっていたことや城づくりの情熱が伝わってきて、感動しました。

料理作りでは、チャーハンや焼きうどん、カレーライスも作れるようになりました。家族が料理を作ってくれる大変さを実感することができました。これをきっかけに料理が好きになり、家族が仕事でいそがしい時には、料理のお手伝いをしています。

ぼくは、仕事で忙しい平日に家族がラーケーションで休みを取ってくれたことがとても嬉しかったです。「お城が見られてよかったね」や「写真たくさんとれたね」、「ご飯美味しかったね」と思い出に残る家族との会話がたくさん増えたとし、普段ではできない貴重な体験になりました。皆さんにもぼくのように家族とたくさん思い出を作ったり、普段ではできない家族との貴重な時間を過ごしてほしいので、全国にラーケーションを広げたいです。いつもはいそがしくてできない家族との会話やいっしょに過ごす時間が増えるなど、可能性は無限大です。そして、もっとラーケーションを活用するためには、体験したことをノートにたくさんまとめることも大切だと思います。自分が体験したことや楽しかったことを自分の言葉で整理することで、より思い出に残すことができ、自分自身の成長にもつながると考えました。ラーケーションでできた思い出は、決して





学校では体験することのできない、宝物となるでしょう。

これから、ラーケーションが広まって、より多くの人の思い出や笑顔になれる機会が増えると思います。ぜひラーケーションを全国へ広めましょう。

信頼し合える関係のために

港小学校6年 杉浦 彩葉

みなさんは、友達と毎日楽しく過ごしていますか。また、友達のふとした言葉や行動が気になったことはありませんか。

私が友達について深く考えたのは、五年生の頃です。いつも一緒にいた友達が他の友達と仲良くなり始めました。楽しそうに笑う声や約束をしているのが聞こえてきて、私が話しかけても気付かないときもありました。「私のことがいやになったのかな…」と感じて、さびしくなったり、悲しくなったりしました。不安になって、学校で泣いてしまうこともありました。登校するのも不安になり、毎日担任の先生に話を聞いてもらっていました。そんな日々が続き、不安なまま学校生活を送るのはいけないと思うようになり、悩みを乗り越えるために、二つのことに取り組みました。

一つ目は、自分の気持ちを伝えることです。なやんでいることを母に話したら、

「友達に素直に話してみたら？」

と言われました。夜ねる前に、なんて話そうか一生けん命考えて、次の日、自分が不安に思っていることを友達に話しました。今までどおり仲良くしたいという自分の気持ちを素直に言いました。すると友達は、

「わたしは彩葉のことをいやだと思ってないよ。」

と言いました。友達の口からきちんと気持ちが聞けたので、少し気が楽になりました。それから友達に、自分の思っていることを話すようになりました。相手の気持ちを勝手に考えるのではなく、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを聞いたりして、直接話すようになりました。自分の気持ちを伝えると、心のもやもやがすっきりしました。

二つ目は、全体を見て考えることです。学校で不安になったことを一つ一つ母に話してみました。すると、

「小さなこと一つだけを気にせずに、全体を見て考えるといいよ。」

と言われました。わたしが、





「どういうこと。」

と聞いたら、

「不安になった時の友達の様子だけじゃなくて、その前の放課とか、一緒にいて楽しいときのことを思い出してみたら？」

と言われました。確かに友達は他の子と仲良くしているけれど、私とも変わらず話したり、遊んだりしています。仲間外れにされたり、意地悪されたりということはありませんでした。友達は悪いことはしていないのに、私が勝手に思いこんでしまっていることに気付きました。それから、小さなことが気になっても、その前後のことなど全体を考えて、だいじょうぶと思えるようになりました。小さなことを気にして、他のよいところが見えなくなってしまうと、不安が大きくなっていきます。また、自分の勝手な思いこみで相手を傷つけてしまうこともあるかもしれません。反対に、全体をみるとよいところが見つかってだいじょうぶだと安心できます。

友達は、大事な仲間です。世の中には色々な人がいますが、勝手な思いこみで判断せず、お互いのことをよく知ることで、よい人間関係を築くことができます。そして、自分の思いや考えをきちんと伝えたり、一部ではなく全体を見たりすることで、お互いを信じ合えんと思います。そうすれば、信頼し合える関係になり、不安なことも一緒に乗り越えていけるのではないのでしょうか。

信頼し合える友達がいると、学校でつらいことがあっても、一緒にがんばって乗り越えていけたり、一緒に楽しい時間を過ごせたり、悩みも相談できたりします。また、お互いに好きなことについて話し合えたり、一人ではできないことを体験したり、気持ちを共有したりすることができます。私は、これからも友達と心から笑い合える瞬間を大事にしていきたいです。

一人の時間と人と関わる時間

翼小学校6年 大久保 舞衣

私は、一人の時間が好きです。一人の時間は、物事に集中して自分のやりたいことができます。場の空気を読んだり、周りの顔色を気にしながら話についていこうとあせったりして、つかれることもあります。そんなだれにもじゃまされず、静かに自分らしくいられる一人の時間に私はほっとします。学校の休み時間に好きな本を読んだり、家で好きな音楽を聞いたり、何も考えずにぼうっとして





いるだけでも、私にとってとても大切な時間です。

ある日、国語の授業で「さなぎたちの教室」という作品を読みました。主人公の谷さんは私と同じ小学六年生。クラスがえをした新しい教室で新しい仲間との生活が始まる四月、「友達はあるのになぜかだれもいないような気がしたり、みんなのそばにいるはずなのに遠くはなれている気がしたり」という谷さんの心の声から物語は始まりました。その文章を読んだとき、自分と谷さんがどこか似ているような気がして、私の心は強く動かされたのです。家に帰ってから、私は一人でベッドに入りながら、その言葉を何度も思い返しました。「みんないるのに遠く感じる」ってどういうことだろう。みんなといっしょにいるのに、なんだか自分だけちがう場所にいる、そんな気持ち、私も感じたことがある。どうして私は一人の時間が好きなんだろう。人と関わるのが苦手なのかな。だれかとつながりたい気持ちと、一人の方が気楽で安心できる気持ち。でも、周りとうまくなじめていない自分はみんなとちがう。そう感じると、なぜか自分に自信がなくなってしまう。いろんな思いが頭の中をぐるぐる回って、私はだんだんと苦しくなっていました。

次の日、思い切って友達にその気持ちを話してみました。すると友達は、

「分かるよ。私もそういうときあるよ。自分を責めちゃったり、勝手になやんじゃったり。でも、一人の時間が好きなことは悪いことじゃないし、こうやって人に相談すると気持ちが楽になる。だいじょうぶだよ。」

と、優しく言ってくれました。私と同じ経験が友達にもあり、私だけではないのだと分かり、ほっとしました。同時に、友達が自分の気持ちを優しく受け止め、自分のためにいっしょになって考えてくれたことがすごくうれしかったです。

一人の時間は、私にとって心を落ち着かせる大切な時間です。将来の夢について考えたり、ノートに自分の気持ちを書き出したり、一人静かに自分を見つめ直すことができます。しかし、今回のことを通して、一人でかかえすぎてしまうことで苦しくなることもあると気付きました。そんなときは、信らいてくれるだれかに話してみることで、自分とはちがう考え方にふれることができ、視野が広がります。それは、自分の中に新しい風が入ってくるように、気持ちがすっと軽くなります。また、だれかと「うれしい」気持ちを分かち合うことで、かけ算みたいに喜びも倍に感じます。

一人の時間と人と関わる時間、この二つの時間は、どちらも私にとってかけがえのないものです。一人の時間を大切にすること、それは決して「人をさける時間」ではありません。「自分を大切にする時間」です。自分と向き合い、自分の心の声に耳をかたむけ、自分はどう思うのか考えたり、好きなことをしてつかれた心を休ませたり、「自分らしさ」をゆっくり見つめる時間です。だから、一人





でいる時間が好きなことも、一人の時間が人より多いことも、何の問題ありません。むしろ、自分のことを大切にできている、自分と向き合い自分をみがく時間だと、自信をもっていいと私は思います。しかし、一人でなやんだり迷ったりしたときは、一人でかかえこまず、だれかに相談することを忘れてはいけません。また、一人では気付けないこと、経験できないこともたくさんあります。人と関わる時間は、「新しい考え」を見つける時間です。

私はこれからも、自分がいちばん自分らしくいられる「一人の時間」と、視野を広げ、新たな考えを見つける「人と関わる時間」の両方を大切にしていきたいです。

ただ自分でありたいだけ

高浜中学校3年 橋本 みゆ

皆さんは女性の一人称と言えば何を思い浮かべるでしょうか。私、うち、あたしなど挙げてみればたくさんあります。しかし、「俺」を浮かべた人は少ないのではないのでしょうか。男性でもないのに俺？と思った方は少なくないでしょう。

私は、小学三年生のときに一人称を俺に変えましたが、特別に自分自身を男性だと思っているわけではありません。正直に言えば、制服を着るのは嫌だと思うほどに、スカートが嫌いです。休日用の私服はすべてズボンを履いています。ただ、男性ではないけれど、自分のことを「俺」と言った方が自然な自分で、自分らしくいることができると思ったから「俺」という一人称を使っているだけなのです。

一人称を変えるきっかけを与えてくれたのは親友でした。彼女とは小学校一年生からずっと一緒でした。私が小学校三年生だったころ、私の一人称はころころ変わっていました。私、うち、あたし。そのどれもが、なんだかしっくり来ませんでした。そんなとき、彼女が、「しっくりこないなら、いっそのこと俺と一緒にすればいいんじゃない？」と提案してきたのです。内心、初めは何を言っているんだと反発しました。女性である自分を俺と言ったら、周りに何と思われるか分からなくて不安になったからでした。しかし、堂々と自分を出すことができる彼女のことをうらやましいとも思いました。彼女の一人称は「俺」





で、いつもの服装といえば、黒色や茶色の暗い色彩のズボンを履いていました。そのような姿を見て、男子のような人だなと思っていました。さらに彼女は服装だけでなく、言葉遣いも荒かったので、私がイメージしていた女性らしさとはほど遠い存在に見えました。しかし、彼女と一緒に過ごしていると、気を遣わず自然体でいられました。彼女のことを信頼していたから、内心では反発しつつも、彼女の提案を信じてみたいと考えていました。だから、勇気を出して一度だけ「俺」と言ってみようと決心しました。

ある日の授業後、休み時間にいつも話す別の友達に「俺、昨日さあ…」と話しかけてみました。どんな反応をするのか、恐る恐る相手の表情を見つめると、驚きはしていましたが、特に否定されることもなく「自分のことを俺に変えたんだね。みゆらしくていいと思うよ。」と言ってくれました。私の「俺」発言を否定するのではないかと、友達を疑っていたことに、申し訳なさを感じました。それとともに、ありのままの私を受け入れられた喜びで胸が弾みました。こうして、私の一人称は「俺」になりましたが、時には一人称を変えたことで嫌なことを言われることもありました。「女なのに俺とか変だね」「なんで女の子なのに俺って言ったりするの？」など、同じクラスの男子に言われることがありました。そのため、仲のよい心許せる友達にだけ「俺」を使っていました。

ある日の夕飯の最中に、目の前に座っていた母にうっかり「俺さあ…」と言ってしまうしました。案の定母から「あなたは自分のことを男だと思っているの？」を皮切りに、「女の子なのに俺って言っている子をたまに見かけるけれど、将来絶対苦労するよ」など、たっぷり叱られました。いつもの母は、女らしくない私を長男なんて呼んでからかっているのに。実際に、男性のような行動を少ししたら、叱るなんてずるいと思いました。このような母とのやりとりから、時が経つにつれて、私という個性について見つめ、考えるようになりました。

さて、現在の私は特別に男性になりたいわけではありません。恋愛対象は男性ですし、世間一般の女性が好きなものが全て嫌いなわけでもありません。ただ、いわゆる男性のような言動をしている方が自分らしく、自由に気楽に生きていくことができると思ったから「俺」と言っているだけなのです。

あなたの周りにも少し変だな、変わっているなど感じさせる人がいるかもしれません。そうした人を、自分のことを勘違いしている可哀想な人だと思って接しないでほしいのです。あなたがこれから先こん





な人に出会ったら、何も聞かず他の人と同じように接してください。
その人は、ただ自分でありたいだけなのですから。

ありのままの自分

南中学校3年 酒井 愛菜

「偽りの自分を愛されるより、ありのままの自分を憎まれる方がいい。」

歌手のカート・コバーンのこの言葉を最初に聞いたとき、私はどうしても共感することができませんでした。誰だって人に嫌われたくはないし、私自身できる限り周囲に嫌われないようにと気を遣いながら生きてきました。言いたいことがあっても相手に合わせて言葉を発したり、納得できなくても笑ってごまかしたり。誰かに嫌われるくらいなら多少自分の意見や感情を抑えることになっても、その方が楽だと思い込んでいました。自分の本音を隠すことに慣れてしまうと、それがいつしか当たり前になり、気がつけば「本当の自分」がなんなのか分からなくなります。それでも私は偽りの自分であっても、誰かがそばにいてくれるならそれでいいと思っていました。

そんな私が変わるきっかけになったのは、ある友達との出来事でした。その友達とは同じ吹奏楽部に所属しています。とても仲の良い友達です。そんな友達と、大会に向けての熱量の差からすれ違いが起き、ちょっとした言い合いになってしまいました。いつもなら早くその場を収めようと必死になるのに、その時だけはどうしても納得がいなくて、

「私はずっとこう思っていた。」

と、つい強い口調で自分の考えを伝えてしまいました。言葉を発した瞬間、

「嫌われたかもしれない。」

「関係性が崩れてしまうかもしれない。」

そんな考えが私の頭の中をぐるぐる回りました。私はその日、自分の本音をぶつけてしまったことで自分の大切な人を失ってしまったのではないかと強く後悔しました。このまま気まずい状態が続くのは嫌だと思い、家に帰って友達に、「強く言い過ぎた。傷つけてしまったいたらごめん」と、メッセージを送りました。何分経っても





返信はなくて、不安な気持ちが膨らんでいきました。もしかしたらもう返事は返ってこないかもしれない。本当に嫌われてしまったのかもしれない。どうしたらいいかわからなくなっていたとき、「傷ついてないし、ちゃんと言ってくれて良かった」と、私の予想とは全く違う返信をしてくれたのです。その言葉を見た瞬間、私の心にずっとあった霧のようなものが晴れたような気がしました。今までは、偽りの自分でも誰かがいてくれるのならそれでいいと思っていたけれど、その友達は、ありのままの自分をしっかり受け止めてくれました。私は、そのとき初めて「ありのままの自分を好きでいてくれる人がいる」ということを知りました。

この出来事を通して、私は少しずつだけれど、自分の思っていることを素直に言葉にすることを心がけています。今でも誰かに嫌われるのは怖いし、本音を言うことで誰かと衝突してしまうのではないかと、傷つけてしまうのではないかとという不安がゼロになったわけではありません。「ありのままの自分」をさらけ出すのは、思っている以上に勇気があることです。それでも、「ありのままの自分」を受け入れてくれる人がいると知ったときの嬉しさは、この先忘れることはありません。もちろん、誰もが自分のことを理解してくれるとは限らないし、本音を伝えた結果、関係が壊れてしまうことがあるかもしれませんが、それでも、「ありのままの自分」をさらけ出すことは、偽りの自分を装ってまで関係性を築くよりもずっと価値のあることだと、今は思います。

「偽りの自分を愛されるより、ありのままの自分を憎まれるほうがいい。」

最初は全く共感することができなかったけれど、今なら少しその意味が分かる気がします。きっと私のように悩んでいる人はたくさんいるのではないのでしょうか。ですが、少し勇気を出してありのままの自分をさらけ出してみてください。そうすればきっと、受け止めてくれる人はいます。そして、次は誰かのありのままを受け止めてあげられる人になりたいです。私たち一人一人が誰かのありのままの姿を受け入れて認め合うことができたなら、きっと今よりも、他人と違うことに恐れずに安心して自分らしく生きられる世界になると思います。そして、私はこれからも人との繋がりを大切にし、自分の気持ちも大切にしていきたいです。





相手と向き合う

愛知県立高浜高等学校3年 橘内 紗亜羅

人間関係において必ず作られてしまう「噂」。本当のことでもデマでも関係なく広まってしまいます。さらには少し言ったことがかなり誇張されて広まってしまうなど、人から人に伝わる時、どんどん話が変わってしまい、最終的には事実と全然違う形になってしまうこともあります。また、自分はしっかりと伝えつもりでも、相手の受け取り方次第で自分が思ってもいなかった捉え方をされてしまうこともあります。このように勘違いが生まれてしまうのは仕方がないことかもしれませんが、しかし、大切なことは、関わりの中で一度引っかかることがあったとしても、自分の憶測を勝手に広げないで、相手と向き合い話をして、相手を知ろうとする姿勢です。

私は小学三年生から中学三年生の六年間を海外で暮らし、現地の学校に通っていました。海外の人たちは、とても人懐っこくハキハキしている人がほとんどで、何かあれば直談判で相手に意見を伝えるに行くことが多い印象です。何か気になることがあれば、「何があったの?」と深掘りするなど、良くも悪くも相手に踏み込んでいきます。一方、相手を気遣い察する日本人は、相手にあまり踏み込まない人が多い印象です。これらは文化によって相手を気遣う行動が異なっていることを物語っており、相手を気遣い察するという日本人の特徴によって、噂が広まりやすくなっているのではないかと思います。

実際に私も、学校生活ではいろいろな噂を聞いてきました。特に印象に残っているのが、高校生活でのある友達との出来事です。当時私がまだ仲良くなったばかりのAさんとだんだん話すようになってきた頃に、他の友達から「Aさんは自分勝手に特定の人を省いて話を続けるような人だから一緒にいて楽しくないよ」とAさんのマイナスイメージが回ってきました。それでも私はAさんと一緒にいても苦ではなかったので、私は私でAさんと仲良くなっていました。しかし、仲良くなるにつれて、だんだんAさんの悪い癖も見えてくるようになりました。例えば、「Aさんが誰かを省いて話をする」という噂で実際に私が感じたのは、Aさんは誰かを仲間外れにするのではなく、相づちを打ってくれる人に集中的に話をしてしまうのだということです。悪い噂をしていた人たちは、Aさんと話をするときに相づちも打たず楽しそうにも話さないのが、Aさんも居心地が悪かったのだと思います。また、Aさんの「自分勝手」という噂は確かにそう感じることもありましたが、仲良くなることで嫌なことは嫌だと伝えることができ、不満になることはありませんでした。





この経験から、Aさんにも、噂を言ってきた友達にも、それぞれ悪い所もあればいい所もあり、私はその人が持っている長所をしっかりと見た上で仲良くしていきたいと思ったので、今では双方と仲良くしています。悪い噂が流れると、最初はその人に対して警戒心を抱いてしまいますが、まだ実際に関わったこともないのに、周りの意見に流されて決めつけるのは勝手すぎるかなと思います。相手の立場に立ってみても、自分と関わりがない人に噂や悪口を言われるのは怖いということは容易に想像されます。事実は本人にしかわからないし、どこかで勘違いが生まれているかもしれません。勘違いは、私が一緒になって噂や悪口を言う理由になりません。そういう噂を聞いてもあまり真に受けないようにすることにしました。そして、「まずは相手と関わってみる」を意識してみると、意外と話が合ったり、その人のいい所が見えたりと色々発見があるものだと気づくことができました。

そこで気になるのは「八方美人」という言葉です。「誰に対してもよく思われようとふるまう人」という意味で、多くは非難するときに使われる言葉です。しかし私は、誰とでも分け隔て無く人付き合いができる八方美人なら悪いとは思いません。もちろん、誰にでも優しい「いい人」で終わらないように、自分の意見や自分の限界を持っておくことは必要です。さらに私は、相手の意見や価値観が自分と違っていても、「そういう考えもあるよね」と認め尊重する気持ちと、物事を察したつもりになって考えた自分の憶測を事実だと信じ込まず、自分が実際に相手と関わってみてどう感じたかを大切にすることを忘れずに、相手と向き合っていきたいです。





あとがき

この冊子は、各校から送られてきた少年の主張作文原稿をもとに作成しました。大会の開催に向けてご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

発行 令和7年6月

発行者 高浜市青木町四丁目1番地2

高浜市・高浜市教育委員会



人と想いが
つながつながるしあわせなまち
大家族たかはま

